**121**　髄液漏のRI cisternographyによる診断

平塚秀雄，福本達，青柳傑，山口武兼，岡田冷大，稲葉穣（東京医歯大，脳外）　長谷川誠（同大耳鼻科）

髄液漏は外傷，腫瘍或いは特発性におこるが，その正確な部位診断は手術治療上重要である。RI cisternography（RIC）は，最も有力な診断法であることが多いが，必ずしも病変部位を描出することは困難で，特に微量の場合ほとんど不可能である。われわれはRICのImageの分析に加え，糸つき綿球を①嗅裂，②中鼻道，③嗅裂の後方・蝶形骨洞前面におき，RI注入後約5時間で綿球中のRIをcountする方法を併用し，部位診断に役立たせている。19例30回について行った結果，①髄液漏の存在，②部位・経路，③程度の診断に有用であった。

**122**　老人性NPHに対するシャント術適応の指標：RI、CT及びinfusion test法による検討

川口新一郎*，飯尾正宏*，星豊**，布施正明**，千葉一夫*，山田英夫*，村田啓*，野口雅裕*，大竹英二*，高岡茂*
*東京都養育院付属病院　核医学放射線部
**　　同　　・脳神経外科

正常圧水頭症（NPH）の診断は現在RI脳槽スキャンで行われ、CTやinfusion test法も補助診断法となっている。老人痴呆患者にNPHの多いことは既報したがその治療にシャント術が行われる。著者らは老人NPH例でのRI脳槽スキャンとCT所見とを対比し、CTによるPVL所見、脳室拡大所見とRI診断の間には相関のみられないことを報告した。今回はシャント術の予後判定に及ぼすRI、CT、infusion testの意義をretrospectiveに検討した。過去4年間に当院脳神経外科で老人性NPHとして27例がシャント術を受けた。術後の効果は顕著改善9例（33%）、改善7例（26%）、やや改善7例（26%）、不変4例（15%）であった。手術有効例はCT上PVL所見はないか軽度でありまた脳室の拡張も少なく脳萎縮が軽度であった。手術無効例では逆に高度のPVLと脳萎縮が認められた。以上、単純CT所見はNPHの診断には有用ではないが、RI法で確認されinfusion testでスクリーニングされたNPH例の予後判定に有効であり、手術適応の判定に有効であることを知った。

---

**123**　高分解能CTとの比較における脳シンチグラムの有用性

有井穂積、高橋睦正、玉川芳春、黒川博之（秋田大、放）

CTの登場により脳シンチグラフィーの施行頻度は激減してきているが、まだ若干の症例に実施されている。当施設においても同様で、GE社製第3世代CTが導入されて以来1年間に両検査法を施行した症例は38例であつた。これらの症例を対象に、脳シンチグラムとCTとの比較検討を行つた。

使用した装置は、GE社製CT/T8800・Searle社製γ-Camera LFOVである。CTは造影剤点滴前後で撮影し、脳シンチグラムは$^{99m}TcO_4^-$静注後2～4時間、または$^{99m}$TcDTPA静注後1～2時間後に撮影した。症例は脳腫瘍21例、血管性病変4例、臨床的に器質的疾患が疑われ、両検査で所見のなかつた7例、その他6例であつた。

CTで描出され、シンチグラムで描出できない病変は、8例の脳腫瘍例に認められた。また病変の存在が両検査で指摘できた症例でも、CTの情報量がより多く、シンチグラムにより付加される情報は少なかつた。今後症例を増し検討を要するが、CTの発達に伴い、脳シンチグラムの適応は更に減少すると思われる。CT時代の脳シンチグラムの適応について考察を加えたい。

**124**　脳血管障害における髄液中cyclic AMP
— とくに慢性期意識障害例について —

国立岩国病院脳神経外科
○石光　宏、難波真平、仲宗根　進

われわれは昨年の本会において脳血管障害（CVA）発症後急性期症例の髄液中cAMP濃度を測定し、意識障害との関係について検討し報告した。今回はCVAの慢性期すなわち発症後3週間以後3カ月以内の髄液中cAMP濃度と意識障害との関係について検討を加えた。

対象はCVAの100症例で、腰椎穿刺による髄液および脳室内髄液中のcAMP濃度を測定した。なおcAMP濃度の測定は前回と同様な方法によるradioimmunoassayで行なった。また意識清明あるいは意識障害を有する31症例でTRH（Thyrotropin Releasing Hormone）、L-dopa，PDL（Phosphodiesterase Inhibitor）を投与し、cAMPの変動を経時的に観察した。

その結果、前回の本学会でCVA後の急性期において著明な髄液中cAMP濃度の低下（5 pmol/ml以下）は予後不良を意味することを述べたが、慢性期においても低い髄液cAMP値の持続、TRH投与後のcAMPにおける反応性の低下は、脳の代謝不全状態を示唆し、意識障害の予後を知る一指標になろうと思われた。

Presented by Medical*Online